

令和3年度 第2回（第6期第1回）新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和3年11月1日（月）午後6時～8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委 員：植田、遠山、長山、笠井、則竹、江曾、大神田、豊岡、富田、横倉、松尾、各委員
事務局：小泉文化観光産業部長、村上産業振興課長、出沼産業振興係長、吉田産業振興主査、
山本主任、国分主事

【欠席者】 伊藤委員、友成委員

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 委員委嘱

3 区長あいさつ

4 委員自己紹介

5 議事

（1）会長の選出・会長あいさつ

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、互選により植田委員を会長として選出した。

（2）副会長選出

新宿区産業振興会議規則第4条の規定に基づき、会長が遠山委員および長山委員を副会長に指名した。

（3）第5期検討事項の概要について

資料2に基づき、事務局より説明した。

（4）第6期産業振興会議スケジュールについて

資料3に基づき、事務局より説明した。

（5）新型コロナウイルスの影響に伴う変化について

- ・コロナ禍での状況変化について各委員から自由意見を求め、情報共有した。
- ・資料4－1、4－2について事務局より説明した。

（6）令和3年度経済対策事業の拡充について

資料5に基づき事務局より説明した。

6 主な発言内容

- ・染色業界において着物の材料となる絹は中国からの輸入が多いが、価格高騰の上に量も減少している。個人としては着物にこだわらずスカーフ、ネクタイ、木製時計等に江戸小紋を染めるような展開をしている。
- ・コロナ禍を創業チャンスと捉えるひが増えている。金融機関のありかたとして、融資するだけでなくM&Aや事業承継を積極的にサポートし、地場を支えていく。
- ・建設業はコロナ以前から人手不足で、下請けの電工職人は50代が多く、特に深刻。元請け側が未経験でも雇い、給料や残業、保険を負担して下請け側で職人を育てている。コロナ禍では電線や照明器具等の資材が高騰した。
- ・中国人スタッフが多い中華料理店ではコロナ禍で帰国者が増え、人手不足になっている。
- ・職人の経験等に依存する中小企業でリストラにより人数が減る中で、コンサル会社がAIの企業もあわせて買収し、経験値の部分をAIで定数化して若者でもベテランのようにできるようになり、コスト削減と雇用

増になった。M&Aを入れることで産業自体の再生のやり方も大きく変わっている。同様に製品開発についても考え方を大きく変え、EV、カーボンニュートラルまで構想した中長期的な産業振興を考える必要がある。

- ・事業承継には出口戦略が必要でM&Aにより付加価値をつけ、若者の育成と分配が必要。人手不足の電気工事会社をマンション大規模修繕業者に買収させ、環境改善を図った事例もある。
- ・地場でならなければならない理由として、染色であれば神田川のように、その土地にあるレガシーが挙げられるが、区外の企業等を買収されるとそれが失われていく可能性がある。
- ・イベント企画関係は厳しい。古き良きものを継承して伸ばし、さらに新たなものに開発していくことが人も含めてこれからの新宿に必要なこと。
- ・商店街とひとくくりにされがちだが、地域や期間毎にデータを用いてターゲットやニーズの把握できる人とできない人の温度差が大きい。従来のような経済のみではなく、人が豊かに持続的に生きていくために必要なエコや文化などの価値の共有が必要。
- ・産業振興とは何かを考えるにあたって、業種別だけでなく、営利と非営利の境界もあいまいになり、経済的価値を追求するだけではなく社会的価値と両立させていく方向性になっている。これは国の報告でもミッション型と呼ばれ、地域社会の課題を解決していくためにビジネスをすることとしている。その観点から新宿にとっての社会的課題とはなにか、街づくり、防災、コロナや他の危機等、一度洗い出す必要がある。併せて文化というものを社会的価値として捉えてどう区の産業振興に活かしていくか。
- ・デジタル化について経産省では地域ぐるみでのDXとしているが、区の公共政策としてどう捉えるか。
- ・デジタルプラットフォームを利用したクラウドファンディングなど、イノベーションは大企業からではなく中小企業、フリーランスでも起きており、境界が無くなっている。デジタル化の活用によりソーシャルとデジタルをになう人材の育成として地域経済が学びの場となる。
- ・各委員からの発言をふまえ、以下のようにまとめる。
 - (1) コロナ禍になり2年近く経ったが、依然として先行き不透明。引き続き、中小企業の実態をみつめ、議論を深めていきながら、必要なことを行っていく。
 - (2) 現状起きている変化として、コロナ以前からAI、デジタル化、技術変革、社会問題、防災、安心、環境はいわれていたが、コロナ禍ではインバウンドの問題、観光産業の在り方に関する考え方、働き方に関する変化がみられ、どちらも見ていく必要がある。また、社会的条件変化として人手不足が挙げられたが、個々の産業や仕事によるものなのか、一般的にいわれているように若者自体が少ないのか、どういった問題が起きているのか、変化と同時に考えていく。
 - (3) 企業、産業、経済、地域、人であらゆる化学変化を起こして変えていかなければならない。例えば染色業が着物にこだわらず、木製時計やタイルに江戸小紋を染める展開をするところがあるように、企業でいえば戦略や事業継続の面で従来の枠が取り払われている。
 - (4) 新宿のメリットやコロナ禍で地域の可能性、優位性から改めて「新宿とは何か」を考える。
- ・今回出たキーワードをふまえ、次回以降、今期の検討事項を具体的に詰めていく。

7 次回日程について（予定）

産業振興会議

日 時：令和3年3月

会 場：B I Z新宿

8 閉 会